

～園芸導入をお考えの稲作経営体の皆様～

「加工用たまねぎ」を栽培してみませんか

1. 加工用たまねぎをめぐる情勢 ～まだまだ必要です！～

食の外部化により、加工業務用野菜の需要が年々高まっています。加工業務用野菜は輸入野菜が約30%を占めており、その中でも「たまねぎ」は輸入割合が高くなっています。

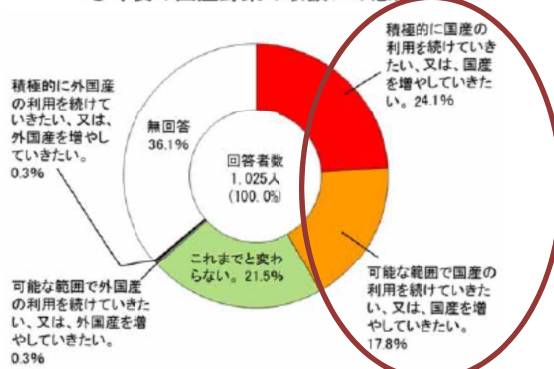
ただし、食品製造業者や外食事業の国産野菜のニーズの高まりにより、「加工用たまねぎ」の需要は高く、また生産拡大により輸入品の増加に歯止めがかけられます。

○加工・業務用需要等に占める国産割合

	2年度	12年度	17年度	22年度
加工・業務用	88%	74%	68%	70%
家計消費	99.5%	98%	98%	98%

資料：農林水産政策研究所

○今後の国産野菜の取扱いの意向

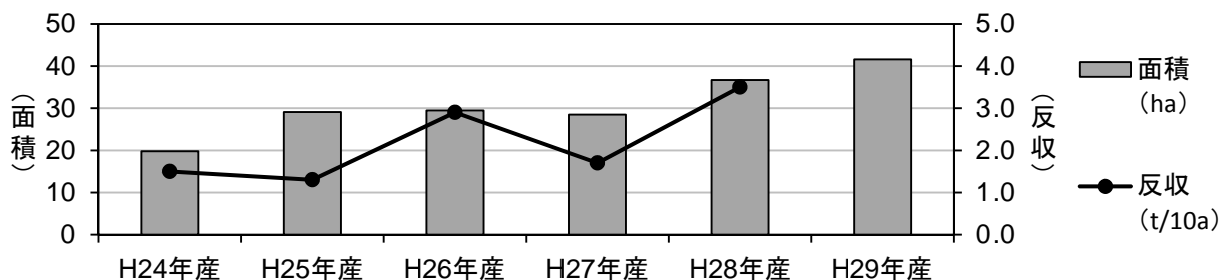


資料：平成23年1月農林水産省調べ

2. 県内たまねぎ栽培の現状 ～こんなに増えてます！～

県内のたまねぎ作付面積は年々増加しています。これは加工用を中心とした稲作経営体のたまねぎ栽培導入が広がっているためです。

また、当初は反収が伸び悩んでいましたが、県関係機関や産地と連携して栽培技術を構築してきたことにより、品質・収量とも改善傾向にあります。



※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

3. たまねぎ栽培の特徴 ～おすすめするには訳がある！～

(1) 加工用たまねぎ栽培のメリット

全農にいがたでは平成22年より加工用たまねぎの本格導入を開始しました。

たまねぎを推進しているのは、以下のメリットがあるからです。

- ① 販売先が確保されている（上記のとおり需要が安定）
- ② 水稲との競合作業が少ない（10月定植～6月収穫）
- ③ 加工用なので出荷規格が簡素（大きさの揃え不必要、荷造り調製が簡単等）
- ④ 機械化一貫体系が整備されている（大規模化も可能）
- ⑤ 水田での栽培も可能（ただし対策は必要⇒詳しくは後述）

(2) 主な販売先

J A全農青果センターおよび県内外の加工業者

(3) 栽培スケジュール・収支試算

①栽培スケジュール

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
●	育苗	▲						融雪後、追肥		◎	◎

●:播種 ▲:定植 ◎:収穫

②収支試算（10aあたり）

区分	項目	金額・収量	備考
販売収入	収量 (kg)	4,320	水田転作での目標反収（径7cm以上） 20,000株/10a×越冬率90%×300g以上80%
	販売価格 (円/kg)	51	全農青果センターH28販売単価
	①収益合計	220,320	(収量×販売価格)
費用	生産費	121,582	種苗13,450円、生産資材84,307円 光熱動力費他23,825円
	出荷資材、手数料等	22,896	出荷資材8,640円、手数料14,256円
	②費用合計	144,478	(生産費+出荷資材・手数料)
利益 (①-②)		75,842	

出典：J A全農にいがた作成「加工・業務用野菜推進チラシ」

J A全農青果センターに出荷した場合の試算

運賃負担は無し・・・青果センター引取

※28年産では水田での栽培で「7.7t/10a」を出荷した生産者もいました。

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

(4) 機械化一貫体系

以下のとおり播種～収穫まで一貫体系での機械が揃っています。

【主な機械】



全自動播種機



全自動移植機



収穫機(掘り取り)



ピッカー(拾い上げ)

収穫後の乾燥、調製、選別を行う機械もあります。

J A全農にいがたでは産地拡大のための機械貸出しメニューがあります。
産地全体や複数生産者による機械の効率的利用が重要になります。

4. 栽培のポイント ～必要な対策はこれだ！～

(1) 水田での栽培のポイント

排水性が悪い水田での栽培は排水対策が必須です。土塊の粗い水田では砕土対策も重要です。どちらも怠ると収量に大きく影響します。

排水対策は、明渠による表面排水を基本に、必要に応じ「モミサブロー」等での耕盤破碎、粃殻補助暗渠の施工、砕土対策はアップカッターロータリーが活用できます。

【水田での栽培における排水対策の有無による収量差】

排水対策	10a当たり収量 (t)
有	3.7 t
無	2.1 t

※H28 JA 全農にいがた「たまねぎ収量調査」
集計結果より



明渠が設置されたたまねぎ圃場

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

【モミサブロー・アップカットロータリー】



モミサブロー



アップカットロータリー

J A全農にいがたでは上記機械をトラクタとセットで貸出しを行っております。29年度も引き続き貸出しを継続する予定です。

(2) 機械化体系での栽培のポイント

セルトレイ苗による定植となるため、育苗がより重要になり、また越冬に耐えられるよう早めの定植が必要になります。セルトレイ苗では概ね10月25日頃までに定植する必要があり、定植時期が収量に大きく影響します。

【セルトレイ苗の定植時期による収量差】

苗種	定植時期	10a当たり収量(t)
セル苗	10月	3.8
	11月	1.5



たまねぎセルトレイ苗 (448 穴)

H28 JA 全農にいがた「たまねぎ収量調査」集計結果より

5. 終わりに

最近では越冬のリスク回避や出荷時期の調整等から「春植えたまねぎ」を導入する動きもあります。

多くの生産者が安心して取り組めるよう、今後もJ A、県関係機関と連携し技術の向上・普及に努めていきます。興味を持たれた方はお気軽にJ Aを通じてご連絡ください。

(園芸部 園芸総合課)